

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

中国とジンバブエ！

JSC 貿易部ニュース 中国編

謹んで新春をお祝い申し上げます。

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

2022年もより一層のご支援、お引き立て賜りますようお願い申し上げます。

今月は、アフリカ大陸の南部に位置するジンバブエについてお話をさせていただきます。

中国情報のメルマガでジンバブエ？と思われるかもしれませんが、アフリカ大陸と中国との結びつきは年々強くなっており、現在すでに切っても切れない関係になってきています。



アフリカ大陸の南部に位置するジンバブエ、かつてはイギリスの植民地でした。

壮大な風景と多様な野生動物の生態系が有名です。中でも最も有名なのは、世界遺産にもなっている「ビクトリアの滝」。ザンビアとの国境にある幅 2KM、落差 108M の大瀑布です。

写真は、世界三大瀑布の一つ「ビクトリアの滝」、壮大で本当にきれいですね～。



アフリカ諸国と中国との関係については新聞記事やネット記事でもよく報じられていますが、貿易額は年々増加しています。

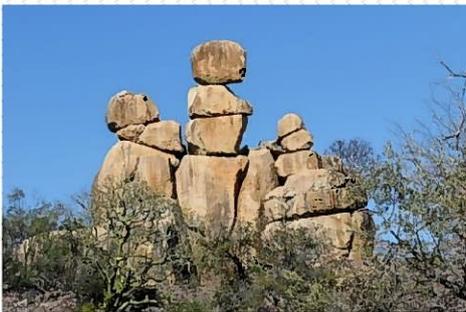
中国がアフリカへ輸出しているのは、電子機器、機械、アパレル、プラスチック製品など、実に多岐に渡っています。

競争の激しいスマートフォンも中国製がトップブランドになっているようです。

80年代以前は日本の家電メーカーがアフリカ市場を席捲していたという話は聞きますが、残念ながら今は後塵を拝するどころではないくらいの状況ですね……

逆に中国がアフリカから輸入しているのは鉱物や燃料が約90%で、その他ナッツ、コーヒー、紅茶等食品関係が多いようです。

資源確保を目的とした鉱物輸入の中には、私たちに馴染み深い石材も含まれているのでしょうか？



ジンバブエについていろいろ調べておりましたと、このような風景の写真がありました。石が積まれたこの独特な風景は人為的なものではなく自然が創り出した風景ですが、インドの南部でも度々目にすることがあります。



こちらの写真は、私がインド南部の石材丁場を訪問した時の写真です。ジンバブエと同じような風景ですね。日本では見られない風景です。

二枚の写真を見ながら、ふと、昔は世界の五大陸が陸続きになっていたという「パンゲア大陸の仮説」を思い出しました。

パンゲア大陸地図と言うものがあります。ググるとすぐに出てきますが、ご紹介しますと……



パンゲア大陸で有名な大陸移動説が本当なら、ジンバブエとインド南部はかなり近い場所に位置していたことになります。

全体図ではわかりにくいので拡大すると……



なんと！ インド黒御影の産地のインド南部とジンバブエはモザンビークを挟んでお隣さんだったのですね。かなり近い場所にあるのが分かります。

これは驚きです！

インド産の石材とジンバブエ産の石材の鉱脈が遥か大昔は繋がっていたと 2 億年以上前の古代のパンゲア大陸に思いを馳せるだけでもロマンがありますね～。

であるならば、インド産黒御影に負けないくらい良質の黒御影あるのでは???
と期待された皆様・・・

今日ご紹介する石は、そんなロマンあるジンバブエ産の黒御影ジンバブエブラックでございます！

これまで主に建築用の黒御影として使用されていたジンバブエ黒ですが、最近、墓石や記念碑に使う中国の工場が出て来ました。近年、コロナや豪雨、コンテナ不足等種々の理由で、インド黒系の新しい原石の入荷が滞り、各工場とも在庫が逼迫していました。また供給不足もあり原石代も大きくあがりました。

そんな状況下、インド産黒御影の代替の候補の一つとして、このジンバブエ黒の良質な原石を選んで墓石や記念碑を作る工場が出て来たのです。ちなみにジンバブエ黒の丁場のオーナーは中国の方です。

厳密に言うと、インド産黒御影やウルグアイ産黒御影と比較すると、下地が少し薄く完全な黒ではありません。確かに、地域によっては黒ではないと言われるところがあるかもしれませんが、薄いながらも、目合いとしてはウルグアイ産の黒のような白い粒子があまり入っておらず全体的には黒に見えます。



当社のパートナー工場では、すでに数百才の生産出荷実績がございます！



最大5尺角の大材もとれますので、黒系記念碑としての活用も可能です。

洋墓としても使えます。和型も高級感がございます！

インド産黒御影が少ない中、新たな黒御影のラインナップの一つとして、このジンバブエブラックは、いかがでしょうか！

今月号も最後までお読み頂きありがとうございました。

本年も一層尽力して参りますので、ご指導、ご鞭撻を賜ります様、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2022/01/01